

麻機遊水地の自然



遊水地の整備により池沼部が形成され、魚類や水生昆虫が生息するようになりました。さらに、これらを餌とした水辺を休息の場として利用する野鳥が多く飛来するようになり、これまでに遊水地で確認された野鳥は200種以上にもなります。

また、かつての浅畑沼に生育していたアシやガマ群落などが多く見られますが、治水整備により埋土種子が掘り起こされた箇所では、水田や沼に生育していた数多くの攪乱依存種が芽生え、これまでに確認されている植物は約600種にも及んでいます。その中には国や県が絶滅危惧種に指定しているミスアオイ(県版RDB※1:VU※2)やタコノアシ(県版RDB:NT※3)も見られ、2001年(平成13年)には、環境省より全国最大級のミスアオイの自生地として、また、タコノアシなどの絶滅危惧種が多いことから、「日本の重要湿地500(ウェットランド500)」に指定されています。

その他にも、アシやガマ群落ではカヤネズミ(県版RDB:NT)などの生息・繁殖も確認され、また、環境が多様化したことで昆虫の種類も増加しました。特に湿地に生息するイトトンボ、ヤンマ類などのトンボが多く生息するようになりました。

※1 県版RDB:「まもりたい静岡県の野生生物」 ※2 VU:絶滅危惧II類 ※3 NT:準絶滅危惧

自然環境の課題

水環境の悪化

池沼部では、チクゴスズメノヒエ等の繁殖力の強い外来種が繁殖し、開放水面が減少しています。また、遊水地内に流入する水が少なく、湿地の乾燥化が進んでいます。

人と自然との関わりの変化

ゴミの不法投棄や外来種の持ち込みなど、利用マナーが悪化しています。また、かつてあったような人と自然との関わりが減少し、多様性の少ない環境になりつつあります。

生態系の悪化

植生遷移により、ヨシやヒメガマが生い茂り、またセイタカアワダチソウなどの外来植物が侵入し、攪乱依存種の生育環境が失われ、環境が単調化しつつあります。

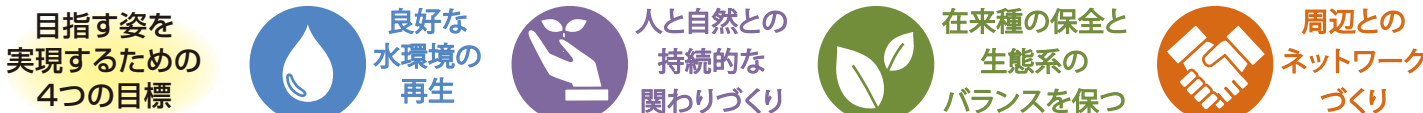
協議会の目標

協議会では、2007年(平成19年)に策定された自然再生全体構想で、麻機遊水地の目指す自然の姿を定めています。

いのち 生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機

麻機の自然は原生自然ではなく、歴史的、文化的な人と自然との関わりから生まれた里地里山環境です。しかし、戦後、人々の生活様式や社会環境が急激に変化したことにより、かつてあった豊かな自然が徐々に衰退してきています。

そのため、**良好な生態系(環)**、**里地里山環境にあった人と自然との共生(和)**、**周辺の自然とのつながり(輪)**を取り戻し、後世に伝えるため、「生命(いのち)にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機」を目指します。



協議会員の募集

麻機遊水地保全活用推進協議会では、いっしょに活動に協力していただける協議会員の募集を行っています。参加希望される団体、個人の方は事務局までご連絡ください。

アクセス

- ### ■バスのご利用
- 静岡駅前バス停から
- 第1、4工区方面(所要時間 20分程)
 - 16番乗り場 大浜麻機線(麻機行/麻機北行)
 - ・第1工区 麻機小学校バス停下車
 - ・第4工区 草場バス停下車
 - 第2、3工区方面(所要時間 30分程)
 - 5番乗り場 ども病院線(静岡神経医療センター行) 流通センター入口バス停下車
- ※日曜・祝日は運行していないため、大浜麻機線(谷津口バス停下車)をご利用ください。



協議会ホームページ

麻機 協議会

検索

QRコードは、QRコード登録商標です。

- 作成:麻機遊水地保全活用推進協議会事務局
- 静岡県静岡土木事務所 河川改良課
 - 静岡市駿河区有明町2-20 tel:054-286-9363
 - http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/shizuoka/tomoegawa
 - 静岡市 緑地政策課
 - 静岡市葵区追手町5-1 tel:054-221-1251
 - http://www.city.shizuoka.jp/000_000566.html



麻機遊水地保全活用推進協議会

人と生きものの共生を目指す 麻機遊水地 保全活用推進協議会

麻機遊水地は、巴川の治水施設として昭和50年より整備がはじまりました。造成工事で掘り起こされたことにより蘇った、湿地性の植物や、池に棲む魚類、水生昆虫、それらを餌とする野鳥など、多くの動植物が生息・生育する湿地環境となっています。

この自然環境を保全・再生するために、平成16年1月に「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会(現:麻機遊水地保全活用推進協議会)」が設立されました。

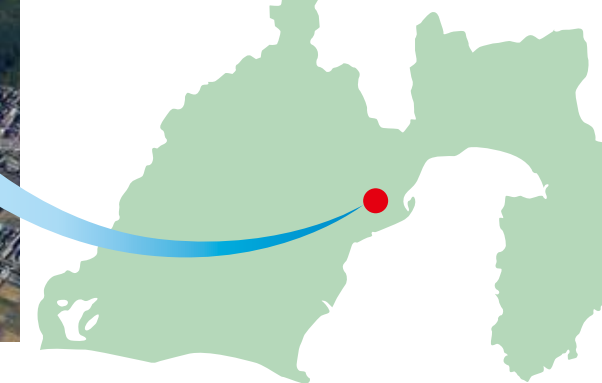
麻機遊水地の昔

1958年(昭和33年)頃の写真(現在の第3工区)

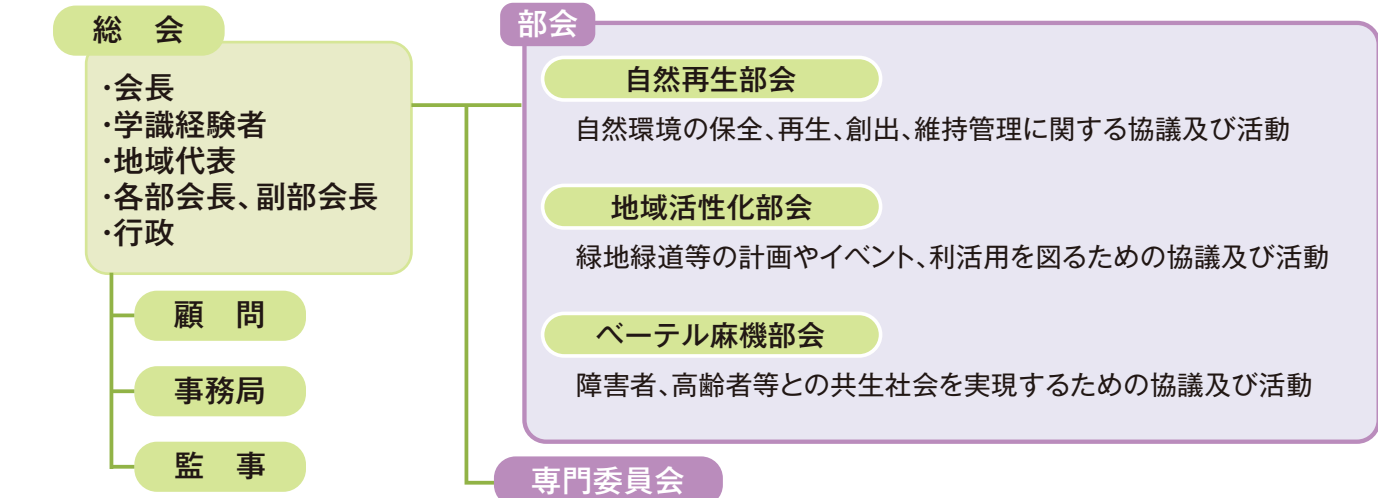
そして1974年(昭和49年)の七夕豪雨を契機に、洪水時の水位を下げるため、水田から遊水地への整備が始まりました。

自然再生の対象区域

麻機遊水地は、静岡市の中心市街地から北に約5kmのところの位置しています。自然再生全体構想では、比較的良好な湿地環境が残る第1工区、第2-1工区、第3工区、第4工区の総面積約160haと、その上流部の巴川を自然再生の対象区域としています。



協議会の組織体制



総会：事業計画及び予算、決算、監事及び専門委員の選任又は解任、その他協議会の運営に関する重要事項の審議。
 部会：協議会会員で構成し、協議会の目的を達成するため、麻機遊水地の保全及び活用についての協議及び活動を行う。
 専門委員会：総会からの要請に応じ、麻機遊水地の自然再生についての技術的及び学術的知見から助言及び提言を行う。
 顧問：協議会の運営に関し指導及び助言をするほか、総会に出席し意見を述べる事ができる。
 事務局：協議会における、運営、会計処理、備品等の購入等に関する事務処理を行う。
 監事：協議会における会計及び事業の監査を行う。

麻機遊水地のいきもの

植物

陸域ではヨシ、ススキなどが多く見られますが、湿地では珍しい湿生植物が生育しています。



魚類・爬虫類

ナマズ、モツゴ、クサガメ等の在来種が生息していますが、外来種に生息環境を脅かされています。



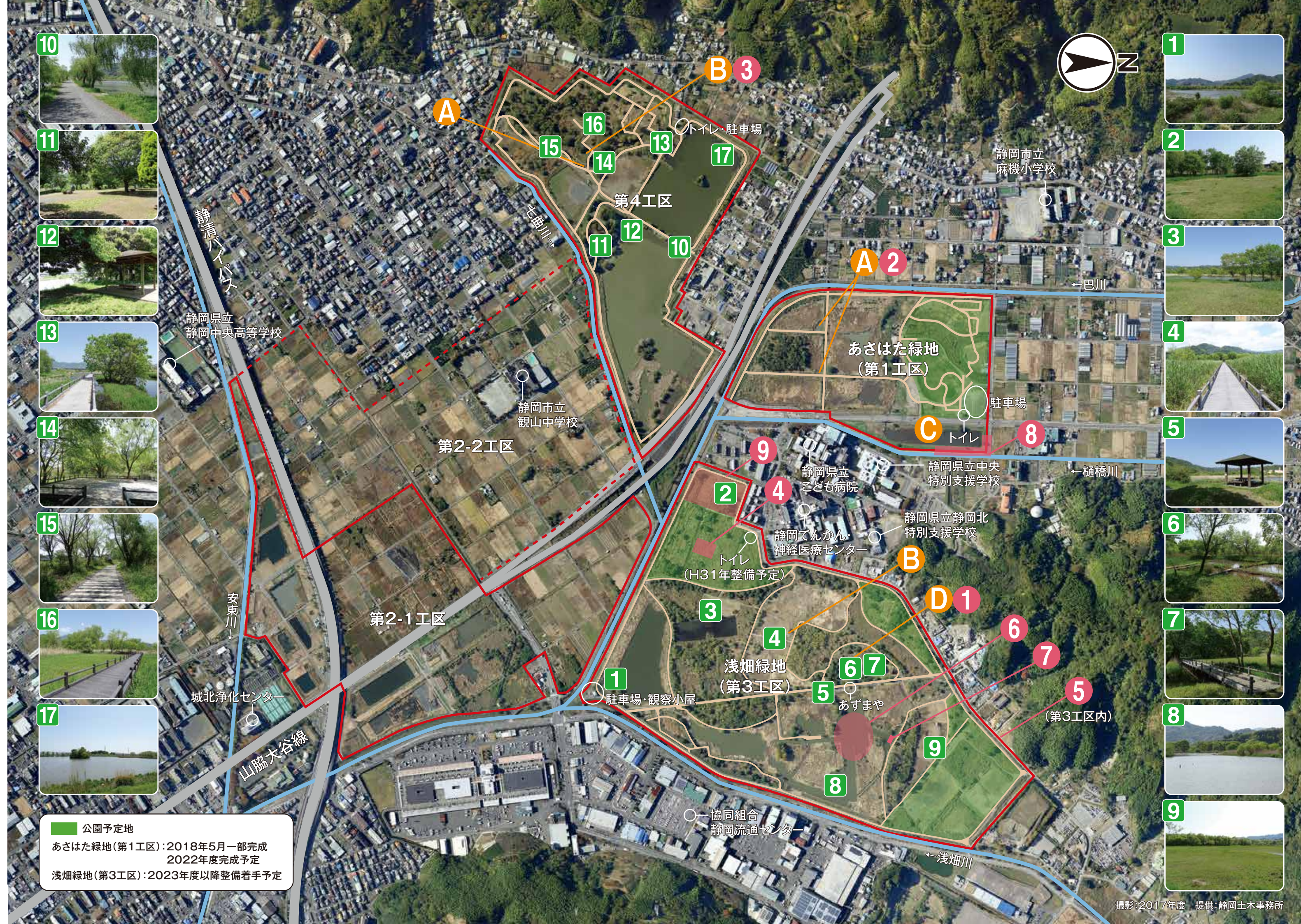
昆虫

池沼、草地、ヤナギ林など多様な環境があるため、様々な昆虫が見られます。



野鳥

年中見られる留鳥から、渡り鳥まで、年間約100種が確認されています。



撮影:2017年度 提供:静岡土木事務所

協議会の取組み

協議会

協議会としては、毎年協議会員や、地域住民の方々と一緒に遊水地の清掃活動に取り組んでいます。また、専門委員と連携し、環境調査や外来種駆除を行っています。



自然再生部会

自然再生部会では、ミスアオイ、オニバス、サクラタデなどの希少植物の再生、保全活動を行っています。また、遊水地の自然の魅力を市民の方々に伝えるために、植物や生き物の観察会を開催しています。



地域活性化部会

地域活性化部会では、遊水地が地域の活性化に繋がるよう、イベントを開催するなど利活用の取組みを進めています。また、地域の文化継承のため、柴揚げ漁も行っています。



ベータル麻機部会

ベータル麻機部会では、周辺の福祉施設や病院患者の方々、遊水地で散策やレクリエーション等の利用ができるよう維持管理を行っています。また、障害者と連携した自然再生活動や維持管理を検討・実施しています。



イベントカレンダー

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	●クリーン作戦	●田植え	●遊水地のいきものを探そう	●オニバス観察会	●ミスアオイ観察会	●サクラタデ観察会 ●遊水地フェスタ		●ソバ打ち会	●柴揚げ漁	●遊水桜まつり	
●探鳥会(毎月第4日曜日)											

※各イベントの詳細は、協議会ホームページにてお知らせします。